

# 東京経学会誌

第 58 号

アメリカ占領下の日本資本主義

川 上 正 道 (1)

中小企業存続理論の批判(2)

——若干の統計資料による——

中 村 金 治 (51)

西ドイツの再軍備にかかる若干の考察 松 隈 徳 仁 (101)

ケネーの「経済表」と「利潤」範疇(1)

——横山正彦教授の反批判に答えて——

渡 辺 輝 雄 (129)

東京経学会誌  
人文自然科学論集

総 目 錄

1968年6月

東 京 経 濟 大 学

# 東京経学会誌 人文自然科学論集} 総 目 錄 (1949~1967)

「号」の欄に「記」とあるのは「創立55周年記念論文集」の略、「65記」とあるのは「創立65周年記念論文集（学会誌47・48合併号、人文10・11合併号）」の略。

(題 目) (執筆者名) (号) (発行年)

## I 人文学

### 1. 哲 学

具体的普遍（上）	門上秀叡	24	1959
思考の技術規範	門上秀叡	29・30	1960
操作としての思考	門上秀叡	32	1961
(資料紹介)	門上秀叡 人	6	1964
アスキン 時間と永遠			
ミーチン マルクス・レーニン主義的認識論と記号と意味の問題			
オイゼルマン 「疎外」概念の反動的歪曲について			
ノボメイスキイ 認識における皮膚視覚の役割			
シンカルク 質の本質			
(資料紹介)	門上秀叡 人	12	1966
ミハイロワ 表象における一般化の性格について			
ペリヤコフ他 ソヴィエトの学術研究センターにおける哲学の研究			
カルタフチャン 他 ソヴィエトにおける哲学教育について			
ヴェトロフ 数学的論理学と近代形式論理学			
ルザヴィン 近代形式論理学と数学的論理学との関係について			
スッポティン シェイクスピアとベーコン			
パンツハーヴァ 他 自然科学における哲学的研究の主題			

- タバーニエツ 科学的認識の論理と現代の形式論理学  
 コブニン 「科学研究の論理学」とその基本的諸概念  
 ケドロフ 自然科学の方法論的諸問題  
 ゴット他 「相互作用」のカテゴリーと物理学におけるパウリの原理

(資料紹介) 門上秀叡人 14 1966

- チャエルゴベツ 社会主義社会における経済法則の意識的使用について  
 コロンケヴィッチ 相似論の方法による質の表現  
 グルシュコフ 思考とサイバネティックス  
 ジダーノフ 物理学における情報モデル  
 ウクラインチフ 情報と反映  
 ローゼンタール 論理学と認識論としての弁証法の研究について  
 ノヴィク サイバネtic的モデルの認識論的性格について  
 シchedロビッキー 教育学における論理学的及び心理学的方法  
 ウクラインチフ プラトノフ 反映の諸形態の発達の客観的標準と物理的基礎について

(資料紹介) 門上秀叡人 15 1967

- イグナトフ 物質の運動形態と種類  
 ソロボフ 自然における物質の運動形態と種類との相互関係  
 アファナーシエフ マルクス・レーニン主義哲学における法則の概念  
 アレクセーエフ 「弁証法的唯物論」課程の内容と組織  
 (書評)  
 セメンチエフ ケドロフ編『弁証法と論理学。思考の諸法則』  
 エラストフ  
 セメンチエフ ケドロフ編『弁証法と論理学。思考の諸形式』  
 エラストフ  
 トンドウル  
 ウェモフ ゴルスキ著『抽象と概念形成の問題』

(資料紹介) 門上秀叡人 16 1967

- グルシコフ 情報モデルの認識論的性質  
 ヤロシェフスキ 一 反映論とサイバネティックスの見地からみたセチェノフの筋肉感覚論

クズネツォフ	物質の化学的組織の不連続性に関する新しい見解
カ ン デ リ カルブシン	青年マルクスの思想の歴史的運命について
レオンチエフ	思考
レ ズ ニ コ フ	科学的創造における記号体系の役割
ス パ ソ フ	現代形式論理学の認識論的諸問題
コ プ ニ ン	科学的認識の論理学
ア ノ ー ヒ ン	サイバネティックスと脳の統合活動
(書評) ジュダーノフ	クルイムスキー著『思考の形式と法則の発生』
(資料紹介)	門上秀叡 人17 1967
クルイレエフ	共産主義における人格の全面的発展について
	科学的問題と認識におけるその役割
(第一論文) モチャロフ	科学認識の論理学のカテゴリーとしての問題
(第二論文) ジャリコフ	問題の提起の認識論的意味
ニキーチン サフオノフ	因果性と関数性
ミールソン	機能と構造との弁証法的統一
ベニコフ	モデル化の方法論的諸問題
アブラミヤン (エレヴァン)	記号論の基本概念
レオンチエフ	反映の概念とその心理学的意義
グリヤズノフ ドゥイニン ニキーチン	モデル化の認識論的諸問題
アノーヒン	条件反射の主要問題の方法論的分析

## 2. 美 学

短歌技巧試論	大成龍雄	5	1952
動勢と時間の表現	大成龍雄	11	1954
レオナルド『聖晚餐図』の手	大成龍雄	18	1957
芸術的否定の諸相	大成龍雄	22	1959
「書」その芸術学的考案	大成龍雄	65記 人10・11	1965

芸術享受について

大成龍雄 人15 1967

## 3. 教育学

教育に於ける実業科と教養科の関係

杉谷正毅 4 1952

ソビエトに於ける生産と教育の問題

	杉谷正毅	10	1954
アメリカ大学教育の動向	杉谷正毅	記	1954
アメリカに於ける職業教育の発達	杉谷正毅	13	1955
アメリカの職業教育	杉谷正毅	16	1957
最近アメリカの教育問題	杉谷正毅	19	1958
産業教育の原理	杉谷正毅	23	1959
大学の理念	杉谷正毅	29・30	1960

最近ソビエトに於ける生産と教育の問題

杉谷正毅 31 1961

最近ソビエトに於ける生産と教育の問題（続）

	杉谷正毅	32	1961
総合技術教育の諸問題	杉谷正毅	人 1	1962
校内競技の必要性について	多田謹次	人 3	1963
中等教育の動向	杉谷正毅	人 3	1963
アメリカ大学の動向	杉谷正毅	人 6	1964
産学協同教育	杉谷正毅	42	1964

Sports badge testについての一考察

	多田謹次	人 7	1965
教職	杉谷正毅	65記 人10・11	1965
スポーツテストに関する一考察	多田謹次	65記 人10・11	1965
海外研究記 一スカンジナビア	杉谷正毅	人 14	1966
海外研究記 一ドイツ	杉谷正毅	人 15	1967

都内高等学校における野外活動の実態調査

堀口正弘	人 15	1967
小宮喜久		
海外研究記 一ヨーロッパ	杉谷正毅	人 16
海外研究記 一アメリカ	杉谷正毅	人 17
大学体育の課題	多田謹次	人 18

4. 史学・歴史

名前の研究	神保規一	6	1952
The Character of Queen Victoria Prince Albert	伊東 弥	7	1953
—A Character Study—	伊東 弥	9	1954
The Transition of British Colonial Policy Reviewed	伊東 弥	17	1957
明治史料研究連絡会編『明治史料集』について	下山三郎	20	1958
Some Numerical views of Japan	伊東 弥	25	1959
Habiru をめぐる名前について	神保規一	29・30	1960
The Character of King Edward VII	伊東 弥	29・30	1960
Strained Racial Relations	伊東 弥	33	1961
自由民権運動 —その地域的分布—	下山三郎	37	1962
明治前期の多摩地方調査と民権運動研究ノート(1)	色川大吉	人 1	1962
透谷の「幻境」行 —勝本清一郎説訂正のための考証—	色川大吉	人 2	1962
<一般豪農・農民層の思想の総合研究①>			

## 挫折を知らぬ民権家

—平野友輔論—

色川大吉 人4 1963

## &lt;明治前記の多摩地方調査と民権運動研究ノート(2)&gt;

明治前期における地方統治と地方自治

色川大吉 人5 1963

## &lt;一般豪農思想・意識の綜合研究②&gt;

石坂公歴論 色川大吉 人7 1965

服部之総論ノート

—はしがき—

下山三郎 人8・9 1965

明治前期におけるギリシャ正教受難史

—八王子葬儀事件をめぐる闇い一

沼謙吉 人8・9 1965

明治の豪農の精神構造

—細野喜代四郎論—

色川大吉 人8・9 1965

(書評) 色川大吉著『明治精神史』 安丸良夫 人8・9 1965

(資料) 自由民権家の演説筆記 色川大吉 人8・9 1965

国民党的思想

—須長漣造論—

色川大吉 人8・9 1965

Hyksos をめぐる名前について 神保規一 <sup>65記</sup>人10・11 1965

服部之総論ノート

—上からのブルジョア革命—

下山三郎 <sup>65記</sup>人10・11 1965

—郡長の思想と行動

—原豊穣論—

岩佐俊一 人12 1966

Hyksos をめぐる名前について(2) 神保規一 人18 1968

(書評) 色川大吉著『近代国家の出発』

後藤 靖 56 1967

(資料) 佐々木高行日記(前) 色川大吉 57 1968

(研究ノート) 明治反権力思想家の思想構造

一田岡嶺雲小論

山田真津夫 57 1968

近代天皇制研究序説

—その一一

下山三郎 57 1968

## 5. 考古学

無土器時代遺跡調査略報 門上秀穂 27 1960

## 6. 国文学

久米歌の形成・序説 阪下圭八 <sup>65記</sup>人10・11 1965

人麻呂挽歌の構造

—「泊瀬部皇女獻歌をめぐって」—

阪下圭八 人12 1966

久米歌の源流

—地をうつ儀礼をめぐって—

阪下圭八 人13 1966

歌物語の終焉

—伊勢物語ノート・1—

阪下圭八 人16 1967

上山憶良ノート(I)

阪下圭八 人17 1967

## 7. 英米文学・語学

フランクリンの青年時代

—アメリカ・デモクラシーの源泉としての一考察—

大竹 勝 1 1949

エドガア・アラン・ポウの詩とその美的理念 (一)

阿部 保	2	1950	
ベン・エイムズ・ウィリアムズに就て —近代米国文学に於ける歴史小説の拾頭—			
大竹 勝 2 1950			
Mysterious Conception in Nature Architecture (1)			
内山 靖 2 1950			
エドガア・アラン・ポウの詩とその美的理念 (2)			
阿部 保	3	1951	
現代のアメリカ女流作家			
—イーディス・ホオートン, エレン・グラスゴー, ウイラ・キャザーに就て—			
大竹 勝	3	1951	
Mysterious Conception in Nature Architecture (2)			
内山 靖	3	1951	
Infinitiveについて —verbals研究 その(1)—			
中 秀男	4	1952	
ハーバート・リードの戦争詩	安斎七之介	6	1952
GERUNDについて —verbals研究 その(2)—			
中 秀男	7	1953	
Participleについて	中 秀男	8	1953
トリリングの文学論に就て	大竹 勝	10	1954
再びトリリングに就て —創作を中心にして—			
大竹 勝	12	1954	
ユージン・オニール論	祥瑞 専一	12	1954
E・M・フォスターについて —トリリングの評論を中心にして—			
大竹 勝	記	1954	
スティヴァンソンのマークハイム	三木 健嗣	記	1954
生につながる芸術, 死につながる芸術			

## —現代アメリカ文学の動向—

祥瑞 専一	記	1954	
verbalsについて	中 秀男	記	1954
五人の批評家について	大竹 勝	13	1955
ハーミストンのウイア (weir of Hermiston)	三木 健嗣	13	1955
ON SOME CHARACTER OF CHARLES DICKENS	伊東 弥	13	1955
プリンス・オトー (Prince Otto)	三木 健嗣	14	1955
詩人エマソンの神話			
—詩魂の深層心理学的考察—	祥瑞 専一	15	1956
英語とフランス語 (一)	三木 健嗣	15	1956
—或る英語学的考察—			
英語とフランス語 (二)	三木 健嗣	16	1957
—或る英語学的考察—			
リング・ラードナーについて	大竹 勝	18	1957
アメリカ南部とコールドウェル (一)	大竹 勝	19	1958
アメリカ南部とコールドウェル (二)	大竹 勝	20	1958
ジェームズ・ジョイス年譜 (一)	三木 健嗣	20	1958
—作品との関係において—			
ジェームズ・ジョイス年譜 (二)	小川 美彦	20	1958
—作品との関係において—			
アムブローズ、ビアスについて	小川 美彦	23	1959
ディッケンズについて	大竹 勝	24	1959
—The Problem of Evil in Charles Dickens—			

- 大竹 勝 28 1960
- ジェームズ・ジョイスの「ユリシーズ」の「プロテュース」  
エピソード解説
- 海辺の瞑想—
- |                         |       |       |      |
|-------------------------|-------|-------|------|
| フローベールと悪の文学             | 小川 美彦 | 28    | 1960 |
| スタイルンペックのリアリズム          | 大竹 勝  | 29・30 | 1960 |
| トマス・ウルフについて<br>—伝記を中心に— | 百瀬 文雄 | 29・30 | 1960 |
- |                                    |      |     |      |
|------------------------------------|------|-----|------|
| マーク・トウェインとジョージ・W・ケーブル              | 大竹 勝 | 33  | 1961 |
| ウィリアム・ディーン・ハウエルズについて               | 大竹 勝 | 34  | 1962 |
| アフリカーナの「自負」と苛責と<br>—アラン・ペイトンの人と作品— | 大竹 勝 | 人 1 | 1962 |
- |                              |       |     |      |
|------------------------------|-------|-----|------|
| Henry Jamesについて（前篇）          | 高橋 徹  | 人 1 | 1962 |
| 岩波版『ユリシーズ』への補遺と訂正            | 大竹 勝  | 人 2 | 1962 |
| Durham and Elgin             | 小川 美彦 | 人 2 | 1962 |
| ある人間像についての試論<br>—エスケープマンの系譜— | 伊東 弥  | 人 3 | 1963 |
- |  |      |     |      |
|--|------|-----|------|
| (紹介) William K. Wimsatt, Jr. & Clean Brooks<br>Literary Criticism—A Short History (Alfred Knopf, New<br>York, 1962 <sup>2</sup> , 755pp. \$8.95) | 大竹 勝 | 人 4 | 1963 |
| 伝統・文学・個性<br>—T・S・エリオットの批評論管見—  | 高橋 徹 | 人 5 | 1963 |
| (紹介) シェクスピアの永遠性について エドマンド・プランデン  |      |     |      |

	大竹勝(訳)	人 5	1963
(紹介) ≪フリーダムウェイズ≫ (黒人問題綜合季刊誌)			
C · B · ブラウンについて	高橋 徹	41	1963
らばと種馬 —フォークナーと黒人—	大竹 勝	65記 人10・11	1965
John Dos Passos —経験の探求と自己意識—			
リンカーン小伝 —死後100年によせて—	高橋 徹	65記 人10・11	1965
Iris Murdoch の世界 —Under the Netを中心て—	牧野 純夫	65記 人10・11	1965
エドワード・ペラミーについて	山崎 勉	65記 人10・11	1965
創造精神と帰属性と —「アメリカの夢」の系譜によせて—	大竹 勝	人12	1966
フランク・ノリスについての再評価	高橋 徹	人12	1966
(翻訳) Ōgai Mori IF THIS MOMENT A STORM APPROACHES Nobuo Ayukawa SONG OF A SOLDIER	大竹 勝	人15	1967
(紹介) ロバート・W・ストールマン 新批評：エドモンド・ウェイルソン 歴史的批評について：フレデリック・A・ポトル 新批評と歴史的方法			
	高橋 徹	人16	1967

ラッセルの人間像と宗教観	大竹 勝	人17	1967
グレアム・グリーンと悪の文学	大竹 勝	人18	1968
比較級における限定副詞と強調副詞	鳥越伸彦	人18	1968

## 8. 仏文学

カミュと悪の文学	大竹 勝	31	1961
----------	------	----	------

## 9. 独語・独文学

ヘルマン・ヘッセの『ナルチスとゴルトムント』について	長尾 伸	人3	1963
ゴルトムントにおける遍歴について	長尾 伸	人5	1963

ヘッセの初期作品（I）

10. 露語・露文学	長尾 伸	人7	1965
クルィローフ(1769~1844)の寓意詩	吉原武安	人7	1965

—とくに、1820年代前半のものについて—

クルィローフの寓意詩

—ナポレオンのロシア侵略前後の—

吉原武安	65記 人10・11	1965
------	---------------	------

寓意詩人クルィローフと《検閲》(一)

吉原武安	人12	1966
------	-----	------

寓意詩人クルィローフと《検閲》(続)

吉原武安	人13	1966
------	-----	------

ミハルコーフの初期の寓意詩

吉原武安	人14	1966
------	-----	------

動詞接頭辞の機能の概要

吉原武安	人14	1966
------	-----	------

(資料) ロシア民話のうち、とくに不遇な民話

—風刺民話—(上)

吉原武安	人17	1967
------	-----	------

## II 自然科学

### 1. 数学・統計学

- 通路数計算の問題 河合諱太郎 11 1954
- 態度測定 (Attitude Measurement) に関する 1 つの実験  
—“規則”に対する高校生の態度の数量化の試みについて— 石田 望人 4 1963
- 多重回帰分析における変数選択問題の紹介と電子計算機による  
計算例 石田 望人 6 1964
- 統計計算における電子計算機の利用について 矢島 敬二 <sup>65記</sup>人10・11 1965
- 統計計算のプログラム・パッケージについて 矢島 敬二 人14 1966

### 2. 科学史

- 『プリンシピア』に就いて 細谷 寿郎 1 1949  
(書評) 化学概論と化学史  
—文科系向化学教科書から— 大沼 正則 21 1958
- 近代化学における力と物質との関連について  
—ペルトレ, プルースト, ドールトン— 大沼 正則 23 1959
- アルベルト・アインシュタイン  
—「アウトサイダー」の問題として— 野口 玉治 24 1959
- 有機化学構造論の基礎  
—ケクレの諸論文を中心にして— 大沼 正則 26 1960
- ニコラス・コペルニクス 野口 玉治 29・30 1960

「懷疑的化学者」とロバート・ボイル  
—とくに第4命題をめぐって—

大沼正則 人1 1962

「懷疑的化学者」成立事情  
—ボイルの科学的化学の確立—

大沼正則 人3 1963

豊田佐吉の評価

内田星美 人8・9 1965

ロバート・ボイル「形相と質の起源」と粒子哲学

大沼正則 <sup>65記</sup><sub>人10・11</sub> 1965

日本物理化学史

—その1—

大沼正則 人18 1968

### 3. 科学・技術論

生物物理ノート(1)

—方法論、進化論などの問題—

野口玉治 人2 1962

生物物理ノート(2)

—「生物時計」について—

野口玉治 人5 1963

(書評) 入江敏夫・林 礼二『現代の人文地理学』

関根鎮彦 38 1963

「構造」についての若干の考察

荒川幾男 <sup>65記</sup><sub>人10・11</sub> 1965

地学の大系について

井尻正二 <sup>65記</sup><sub>人10・11</sub> 1965

エネルギー需給論と原子力

野口玉治 <sup>65記</sup><sub>人10・11</sub> 1965

統・エネルギー需給論と原子力

野口玉治 人15 1967

#### 4. 心 理 学

学習理論批判 (一)  
—試行錯誤説について—

石川英夫 5 1952

学習理論批判 (二)  
—洞察説について—

石川英夫 6 1952

ボス的児童の事例研究

石川英夫 9 1954

子供の怪我に関する心理学的研究

石川英夫 12 1954

現代青年の理想に関する一考察

石川英夫 記 1954

Binet 法と WISC との関係

—幼児について—

石川英夫 14 1955

男女共学の問題

石川英夫 16 1957

児童画による親子関係の診断についての吟味

石川英夫 18 1957

子どもの性格形成と家族関係(一)

石川英夫 19 1958

児童の不安テストに関する研究(一)

石川英夫 20 1958

子どもの性格形成と家族関係(二)

石川英夫 27 1960

新生児の感覚刺激に対する反応

石川英夫 29・30 1960

(書評) 依田新監修『児童心理学の進歩・1962』

石川英夫 人2 1962

親子関係に関する研究

—青年の家庭に対する不満を通して(1)—

石川英夫 人4 1963

(資料) アメリカの児童心理学の研究

—ミネソタ大学児童発達研究所の研究—

石川英夫 人13 1966

自己意識と適応との関係についての一研究

石川英夫 人18 1968

### III 経済学

#### 1. 経済理論

ケインズと古典学派理論(一)

—その雇傭理論の一側面—

中村金治 3 1951

インフレーションの貨幣理論(二)

渡辺輝雄 4 1952

ケインズ雇傭理論批判(三)

—古典学派とのかんれんにおける問題点—

中村金治 6 1952

インフレーションの貨幣理論(四)

渡辺輝雄 7 1953

利子生み資本の一考察(一)

依光良馨 8 1953

利子生み資本の一考察(二)

依光良馨 9 1954

ケインズ理論における短期性(五)

中村金治 10 1954

国民所得=投資理論の課題

中村金治 12 1954

再生産と所得決定

山田雄三 記 1954

通貨の交換性の回復に関する覚え書

依光良馨 記 1954

株価の科学的な分析方法のあり方 原祐三 記 1954

高利貸付資本の本質 依光良馨 16 1957

動学的投入产出モデルへの技術変化の導入

筑井甚吉 22 1959

商業信用と銀行信用(一) 依光良馨 23 1959

商業信用と銀行信用(二) 依光良馨 25 1959

ヒルファディングにおける「理論経済学の問題提起」

<そのI序説>

—ヒルファディング恐慌論研究(一)—

高山 满 25 1959

ヒルファディングにおける「理論経済学の問題提起」<そのII>

## —ヒルファディング恐慌論研究(一)

高山 満 26 1960

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;I&gt; (序説)

## —ヒルファディング恐慌論研究(二)—

高山 満 27 1960

## T・C・クープマンスの「生産分析」について

筑井 甚吉 27 1960

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;II&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(三)—

高山 満 28 1960

## ローザ・ルクセンブルグ『資本蓄積論』における一問題点

## &lt;ローザ研究覚書&gt;

—ローザにおける「不均等発展」—「内在矛盾」(資本制総生産における)  
の理解を中心に—

高山 満 29・30 1960

## 管理通貨制度における価格の騰落とインフレーション

井汲 卓一 29・30 1960

## 戦後国際通貨制度と国際競争

北田 芳治 29・30 1960

## 労働の限界生産力と実質賃金に関する覚え書

筑井 甚吉 29・30 1960

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;III&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(四)—

高山 満 31 1961

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;IV&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(五)—

高山 満 33 1961

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;V&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(六)—

高山 満 35 1962

## 可能性分析としての経済計画

筑井 甚吉 36 1962

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;VI&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(三)—

高山 满 40 1963

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;VII&gt;

## —ヒルファディング恐慌論研究(三)—

高山 满 43 1964

## ヒルファディング恐慌論の基本構造&lt;VIII&gt;

## —『金融資本論』研究序説&lt;改題&gt;(三)

高山 满 44 1965

現代資本主義における国家と経済 井汲卓一 <sup>65記</sup><sub>学47・48</sub> 1965輸出による超過利潤の本質 木原行雄 <sup>65記</sup><sub>学47・48</sub> 1965

## Price Stability in a Generalized Cobweb Case

筑井甚吉 <sup>65記</sup><sub>学47・48</sub> 1965付加価値についての一論 中村金治 <sup>65記</sup><sub>学47・48</sub> 1965

## 経済学方法論の一齣

## —『広義の経済学』否定論に關して—(1)序説

高山 满 49 1966

輸出による超過利潤の本質(2) 木原行雄 52 1966

輸出による超過利潤の本質(3) 木原行雄 54 1967

## (書評) 依光良馨著『イギリス金本位制成立史』について

酒井一夫 57 1968

企業の利潤利用と自己金融 富永 裕 57 1968

## 景気循環と信用(三)

## —『金融資本論』研究序説 第三部—

高山 满 57 1968

## 2. 経済学史

経済学史の方法について 渡辺輝雄 3 1951

(資料) ロバート・マルサスの回顧録

依光良馨 5 1952

## サー・ウィリアム・ペティの経済学

渡辺輝雄	11	1954	
ケネーにおける「国富」の見解について(一)			
渡辺輝雄	記	1954	
ケネーにおける「国富」の見解について(二)			
渡辺輝雄	14	1955	
ケネーにおける「国富」の見解について(三)			
渡辺輝雄	18	1957	
ケネーにおける「国富」の見解について(四)			
渡辺輝雄	19	1958	
「経済表」(原表)の一解釈	渡辺輝雄	21	1958
(書評) 1958年度経済学史研究の二つの成果			
一横山正彦著『重農主義分析』および松川七郎著『ウィリアム・ペティ』 上巻	渡辺輝雄	24	1959
ウィリアム・ペティの価値理論	渡辺輝雄	25	1959
アダム・スミスにおける貨幣と銀行券			
依光良馨	29・30	1960	
(紹介) ロナルド・L・ミークの『経済表』の解釈	渡辺輝雄	33	1961
(書評) 渡辺輝雄著『創設者の経済学』	内田義彦	34	1962
(資料) ボードー「経済表の解説」(上)			
渡辺輝雄	45	1965	
(資料) ボードー「経済表の解説」(中)			
渡辺輝雄	46	1965	
リカードにおける貨幣価値	依光良馨	65記 学47・48	1965
ケネーにおける「利潤」範疇の解消と「原前払の利子」範疇の 成立について			

渡辺輝雄 65記  
学47・48 1965

(資料) (1)ボードー「経済表の解説」(下)

渡辺輝雄 49 1966

(2)ボードー「工業に対して用いられた不姪という語の  
眞の意味についての解説」

渡辺輝雄 49 1966

### 3. 経 濟 史

プロシア農業発展過程の一考察

—改革以前に於ける—

荒牧哲郎 3 1951

封建制と農村共同体について 渡辺 渡 記 1954

明治維新研究史についての覚え書 下山三郎 29・30 1960

明治維新研究史について 下山三郎 32 1961

鉄鋼業の発展過程(その一)

—木炭鉄鋼業(charcoal-iron Industry) 時代一

末岡俊二 36 1962

経済発展とエネルギー問題 末岡俊二 37 1962

自由民権運動

—その地域的分布—

下山三郎 37 1962

明治維新ブルジョア革命論批判 下山三郎 38 1963

鉄鋼業の発展過程(その二)

—コークス鉄(Coke-Smelting iron) 時代一

末岡俊二 39 1963

明治前期の地方商業銀行(一) 色川大吉 39 1963

「明治維新研究ノート」の結び 下山三郎 40 1963

明治維新研究史補論(一) 下山三郎 41 1963

明治維新研究史補論(二) 下山三郎 43 1964

(研究ノート) R.H.トーニーの「農業問題」についての覚え書き

岡嶋 明 45 1965

(書評) 下山三郎著『明治維新研究史論』

後藤 靖 53 1967

#### 4. 経済政策

経済政策における可能と限界 中村金治 記 1954

ドル不足問題序説 依光良馨 13 1955

日本経済の不安と安定の問題

—デフレ政策の限界と転換の必要について—

原祐三 14 1955

ドル不足問題(一)

—世界資本主義の全般的危機の現れとしてのドル不足問題—

依光良馨 15 1956

経済政策論の方法論序説

中村金治 19 1958

中小企業の存立形態

—とくに零細企業について—

中村金治 22 1959

日本経済と零細企業

中村金治 25 1959

経済政策と国家の機能

中村金治 29・30 1960

(資料) J.P.メナール『独立後のモロッコ経済』

入江敏夫 36 1962

経済統合理論の批判

—方法論序説—

中村金治 41 1963

三多摩地域工業化についての一考察 内田星美 記  
学47・48

1965

「中堅企業論」の批判と評価 末岡俊二 記  
学47・48

1965

「中小企業」概念にかんする一考察 中村金治 53 1967

中小企業の存続理論の批判 中村金治 56 1967

## 5. 経済統計

第二義統計としての経済統計について

上杉正一郎 29・30 1960

工業統計における規模別グループ分け

上杉正一郎 34 1962

消費者物価指数の実態

一小売物価統計を基礎とした指数算出の実態とその問題点一

石田 望 人13 1966

統計調査の社会的条件

上杉正一郎 36 1962

日本における国民所得統計の現状

川上 正道 42 1964

(書評) 川上正道著『国民所得』 是永 純弘 46 1965

消費者物価指数に関する若干の考察

石田 望 65記  
学47・48 1965

朝鮮民主主義人民共和国における統計事業

上杉正一郎 65記  
学47・48 1965

日本経済の総括的表示

一改訂・国民所得統計および産業関連表による一

川上 正道 65記  
学47・48 1965

統計対象に関する諸家の見解について

一統計学の性格規定と関連して一

田中 章義 65記  
学47・48 1965

(統計資料)『工業グループ内の相対的変動分析のための資料』

末岡 俊二 51 1966

## 6. 社会政策

中小企業労働者の賃金 北沢新次郎 29・30 1960

(書評) 高島善哉, 水田洋, 平田清明『社会思想史概論』

荒川 穣男 38 1963

戦後わが国の賃金体系

—いわゆる日本の職務給について—

川辺平八郎 45 1965

19世紀前半における「救済金庫」

—ビスマルク社会保険の原形創出過程—

箸方幹逸 46 1965

企業規模別賃金格差についての覚え書

川辺平八郎 65記  
学47・48 1965

戦後の国民所得と賃金

北沢新次郎 65記  
学47・48 1965

ドイツにおける「共済金庫」 Hilfskassen

—ビスマルク疾病保険前史の一章—

箸方幹逸 65記  
学47・48 1965

年功賃金と規模別賃金格差の関連

—価値分割点仮説—

末岡俊二 49 1966

ロックの初期思想における世俗政治と宗教

—“Two tract” の公刊によせて—

中村恒矩 56 1967

## 7. 労働運動史

(研究ノート) 在米日本人社会主義者・無政府主義者運動の

『幸徳事件』におよぼした影響

大原慧 26 1960

(研究ノート) 高橋作衛教授宛、小池張造・巽鉄男の手紙

—在米日本人社会主義者・無政府主義者運動の『幸徳事件』におよぼした  
影響—

大原慧 29・30 1960

『大逆事件』の国際的影響(上) 大原慧 35 1962

(史料紹介) 元老山県有朋への書翰

## —『大逆事件』と関連して—

	大原 慧	39	1963
(研究ノート) 『大逆事件』の国際的影響(中)			
—イギリスにおける抗議運動—			
	大原 慧	42	1964
「大逆事件」と片山潛	大原 慧	65記 人10・11	1965
(研究ノート) 『大逆事件』再審請求についての覚え書き			
—その経過と若干の問題点—			
	大原 慧	人14	1966
(研究ノート) 『大逆事件』の国際的影響(下)			
—フランスにおける抗議運動—			
	大原 慧	51	1966
(資料紹介) A. プラテル稿「東洋の覚醒」			
—Les Temps Nouvoauxより—			
	大原 慧	54	1967

## 8. 農業

農業金融の現状と問題点	井野 隆一	22	1959
農地価格の動向とその形成条件	井野 隆一	26	1960
近郊農村における農民層分解	井野 隆一	29・30	1960
農民層の分解と階級区分(一)	井野 隆一	34	1962
農産物市場の最近の動向と問題点	井野 隆一	36	1962
化学肥料独占と農村市場	井野 隆一	40	1963
農地改革後の「残存小作地」の存在形態(上)			
—現段階における土地問題把握の一視角—			
	井野 隆一	44	1965
中国における社会主义農業の発展	井野 隆一	65記 学47・48	1965
1903年の「農業綱領」とレーニンの農業理論			
	井野 隆一	55	1967

## IV 商 学

### 1. 商 業

自由連鎖店発達の方向  
—アメリカ配給機構研究—

桐田尚作 1 1949

卸売業における特化と統合  
—アメリカ配給機構研究—

桐田尚作 2 1950

商業学の看点・方法及び対象

桐田尚作 3 1951

「過小資本」による挙国的誤算とその影響

原 祐三 12 1954

少占売手市場下の非価格競争

吉村 寿 21 1958

(資料) 売上高最大化原則について

吉村 寿 23 1959

商品特徴理論と並列体系理論

吉村 寿 24 1959

計数による販売経路の選定

吉村 寿 27 1960

低開発国のマーケティング諸問題

吉村 寿 28 1960

広告費の割り当て方策

吉村 寿 29・30 1960

低開発国のマーケティング構造

吉村 寿 31 1961

マーケティング視角の拡大

—グレサー教授の所説を中心として—

吉村 寿 32 1961

最適広告支出と広告稠密度

吉村 寿 33 1961

保険団体と保険取引

箸方幹逸 35 1962

市場調査の課題と実例

吉村 寿 35 1962

市場配給における競争と独占

吉村 寿 37 1962

保険経済の原理的把握

—アメリカ保険理論を中心に—

箸方幹逸 37 1962

転換期の消費者行動	吉村 寿	39	1963
保険とリスク			
—アメリカ保険学会の一動向—			
	箸方 幹逸	41	1963
消費者の小売形態に対する評価	吉村 寿	46	1965
(書評) ザーバー著『マーケティング・マネジメント』他	吉村 寿	46	1965
販売促進の3側面	吉村 寿 <sup>65記</sup> <sub>学47・48</sub>	1965	
最近の割賦調査からみた消費者意識	吉村 寿	49	1966
準備ファンドおよび保険ファンド			
—『資本論』と保険についての研究史覚え書—			
	箸方 幹逸	50	1966
消費者のブランド・ロイアルティとストア・ロイアルティ	吉村 寿	50	1966
広告キャンペインと販売促進活動			
—夏用化粧品の購買行動調査から—			
	吉村 寿	52	1966
消費者の洗剤購買行動	吉村 寿	55	1967

## 2. 経営

ニックリッシュの収益概念について	藤津清治	1	1949
テーラーリズムの研究	向井武文	17	1957
経営管理とモラール	田代義範	20	1958
科学的管理と産業民主主義(一)	向井武文	22	1959
積極財務の一考察			
—ベックマンの所論を中心にして—	柴川林也	23	1959
科学的管理と産業民主主義(二)	向井武文	23	1959

管理組織論(一)	田代義範	25	1959
投資政策の一考察 —メレロヴィッツを中心にして—			
	柴川林也	27	1960
管理組織論(二)	田代義範	27	1960
増分費用と機会費用	柴川林也	29・30	1960
管理の体系と指標	田代義範	29・30	1960
作業の科学とテラー・システム	向井武文	29・30	1960
労務管理について	田代義範	32	1961
経営投資政策の決定基準	柴川林也	34	1962
経営管理技術	田代義範	38	1963
エルマソスキイの労働強度適正化の理論	向井武文	39	1963
資本コストの本質的意義	柴川林也	40	1963
管理思想の展開	田代義範	42	1964
国有化と労使関係	山本政一	43	1964
国有化と管理機構	山本政一	45	1965
西ドイツ経営学方法論についての若干の考察(その1) —メレロヴィッツを中心にして—			
	江夏美千穂	45	1965
資本コストをめぐる諸問題の一考察 —ソロモンの所論を中心にして—			
	柴川林也	46	1965
ソ連における経営分析の基本問題	真下満	46	1965
ケインズとシュマーレンバッハの経済体制論について			
	江夏美千穂	65記 学47・48	1965
フォードの労働時間短縮の理論	向井武文	65記 学47・48	1965
公企業と私企業	山本政一	65記 学47・48	1965

公企業の概念規定をめぐる問題点	山本政一	49	1966
西ドイツ経営学方法論についての若干の考察（その2）			
—メレロヴィッツを中心にして—			
	江夏美千穂	49	1966
フォードの賃金理論	向井武文	50	1966
シェルドンの管理論	田代義範	50	1966
英國鉄鋼再国有化論	山本政一	51	1966
ドラッカーの「正統性」の問題			
—経営管理の基盤—			
	田代義範	52	1966
西ドイツ経営学方法論についての若干の考察（その3）			
—メレロヴィッツを中心にして—			
	江夏美千穂	53	1967
ウィスラーの管理論	田代義範	55	1967

### 3. 会 計

計理制度の国民経済の一考察			
—原価計算制度を中心として—			
	長島文道	1	1949
企業会計原則と財務諸表について			
	永田一郎	1	1949
割賦販売会計再論			
—特に売上高の実現並に収益発生の時期を中心として—			
	坂野観司	10	1954
会計原則と損益計算			
	長島文道	記	1954
無償取得資産の貸借対照表能力に就いて			
	坂野観司	15	1956
ソビエト工業企業におけるバランスの特質と分析			
	真下満	22	1959
縹延資産の非資産性			
—特に報告式貸借対照表資産の部掲記能力の否定と貸借対照表構造改正の提唱—			

	坂野 観司	25	1959
<b>ソビエト工業企業における勘定分類と勘定計画</b>			
	真下 満	26	1960
<b>わが国監査制度の過去と将来</b>			
	坂野 観司	29・30	1960
<b>株式会社設立の会計</b>			
	長島 文道	29・30	1960
<b>会計原則の概念と探究</b>			
	平地 平一	29・30	1960
<b>ソビエト工業企業における原価計算</b>			
	真下 満	29・30	1960
<b>ソビエト企業における簿記形態</b>			
	真下 満	31	1961
<b>ソビエト工業企業における減価償却</b>			
	真下 満	36	1962
<b>我国における標準原価計算の現状</b>			
	長島 文道	37	1962
<b>貨幣価値変動と会計</b>			
	平地 平一	38	1963
<b>ソビエト会計の史的考察</b>			
	真下 満	41	1963
<b>会計学上の利益概念</b>			
<b>—併せて商法との比較論究—</b>			
	坂野 観司	44	1965
<b>引当金と商法</b>			
	長島 文道	65記 学47・48	1965
<b>減価償却の概念と資本回収</b>			
	平地 平一	65記 学47・48	1965
<b>ソビエト会計の方法</b>			
	真下 満	65記 学47・48	1965
<b>貸借対照表における商業信用の表示について</b>			
<b>—自己資本比率低下の問題に関連して—</b>			
	田中 章義	51	1966
<b>(研究ノート) 宮上会計理論についての若干の疑問</b>			
<b>—宮上一男著『企業会計の理論』1965年の書評に代えて—</b>			
	田中 章義	54	1967
<b>黒沢会計理論の「根本思考」について</b>			
<b>—畠中福一著『勘定学説研究』批判への反批判—</b>			

田中章義 56 1967

## V 法 律

株式会社監査制度の研究 山村忠平 1 1949

(資料) 株主の帳簿閲覧請求権

—改正会社法 資料—

山村忠平 2 1950

証券投資信託法上の若干の問題 吉野興一 12 1954

(判例批評) 営業引継の挨拶状の頒布は債務引受の広告になるか  
—昭和34.3.17 東京地裁判決、判例時報189号26頁—(昭和33(ワ) 第5639号、廣瀬太吉・廣瀬無線電機株式会社対ミ  
マツ電機株式会社、約束手形金請求事件)

曾我部 豊 25 1959

取締役の第三者に対する責任 曾我部 豊 26 1960

償還株式に関する一考察 曾我部 豊 29・30 1960

資産評価規定の会計学的批判

—特に改正商法に関連して—

坂野觀司 37 1962

明治前期の家督相続

—明治前期大審院民事判決を中心として—

依田精一 人8・9 1965

精神病離婚 依田精一 44 1965

夫婦財産制とその背景 依田精一 <sup>65記</sup>人10・11 1965

手形の署名代理の効力に関する若干の考察

曾我部 豊 <sup>65記</sup>学47・48 1965

(資料) 「太政類典第二編第六類民法—婚姻

自 明治四年八月 至同十年十二月第三百三十卷」

依田精一 53 1967

## 執筆者紹介(執筆順)

川上正道 本学教授(日本経済論)

中村金治 本学教授(経済政策)

松隈徳仁 本学助教授(国際関係論)

渡辺輝雄 本学教授(経済学史)

1968年5月31日印刷 (第58号) (非売品)

1968年6月1日発行

編代表者 田中 章義

編集兼人 東京経済大学会誌会  
発行人 編集委員会

東京都国分寺市 東京経済大学内

東京都中央区靱岸島1丁目1番地  
印刷所 伊坂美術印刷所  
印刷者 代表社員 伊坂一夫  
電話東京(552)2211

THE JOURNAL  
OF  
THE TOKYO COLLEGE  
OF ECONOMICS

No. 58

---

Japanese Capitalism under USA's Occupation

.....Masamichi Kawakami

A Critique on the Survival Theory of the Small Business (2)

.....Kinji Nakamura

Einige Probleme über die westdeutsche Wiederbewaffnung

.....Norihito Matsukuma

Quesnay's *Tableau Economique* and the Category "Profit" (1)

—In reply to the Anticritique made

by Prof. Masahiko Yokoyama—

.....Teruo Watanabe

---

THE TOKYO COLLEGE OF ECONOMICS

Kokubunji-shi, Tokyo

1968